

意見のふりかえり

1. エリア全体のコンセプト等について

◇市民に喜ばれるという視点

市民が青葉山公園を誇りに思い、日常的に楽しみ、憩いの場として利用することが、来訪者が魅力を感じ、再び訪れてみたいと思うことにつながると考えられる。整備にあたっては、このような日常利用を通じて市民に喜ばれるという視点が必要である。

◇青葉山・仙台城跡のエントランス

公園センターは、青葉山、仙台城を楽しみに行くためのエントランスであり、本丸地区に登る、広瀬川へ下りるなど公園内を移動する拠点であると考えられる。そのために必要な情報発信などの機能を担う必要がある。教育旅行の拠点としても考慮すべきである。

◇周辺施設の連携の拠点

仙台市博物館や国際センターなどの周辺施設をつなぎ、連携の拠点となって、周辺エリア全体の魅力を向上させることが必要である。

◇既存資源の魅力向上

仙台城跡と広瀬川など、今ある歴史・自然資源の魅力を引き出し、向上させることが必要である。

2. 機能について

(1) 情報発信機能

◇仙台・青葉山を知るきっかけとなる情報

青葉山の全体像や周辺施設、青葉山が誇るべき仙台城の石垣、天然記念物、博物館の情報を発信し、実際に出かけて見に行くきっかけとなることが必要である。また、青葉山公園をより楽しむための様々な体験プログラムの情報についても発信することが必要である。

(2) 飲食・休憩機能

◇幅広い時間の公園利用に対応

早朝の散策やランニング、夜間の飲食や休憩などに利用できることが必要である。

◇周辺施設と異なる特徴

飲食施設は、周辺施設と異なる特徴を持たせ、公園センターだけでなくどの施設にも人が集まると良い。

(3) 体験・交流機能

◇「体験」の充実

「本物」、「仙台らしさ」や「健康」などの視点で、市民活動団体や民間事業者の工夫により来訪者が様々な体験や活動ができることが必要である。

(2. 機能について 続き)

◇市民活動との連携

公園センターは市民活動団体の活動を支援し、市民活動団体は来訪者へ体験プログラムを提供するなど、公園センターのサービスと団体の活動が共に円滑に行われていく仕組みが必要である。また、市民活動団体や民間事業者と話し合いをしながら、この場所で行われる体験プログラムのガイドラインをつくると良い。

◇仙台らしいおもてなし、ユニークベニユーの展開

仙台らしいおもてなしやユニークベニユーを展開するために、青葉山の景観と歴史的特性を十分に生かすとともに、インバウンドについては、「本物」の体験を提供し、ニーズの変化への柔軟な対応ができるようにしておく必要がある。

◇お祭り紹介の工夫

単なる展示ではなく、訪れたその季節の雰囲気を感じられること、体験も含めたソフト展開が必要である。七夕まつりや青葉まつりについては、歴史的な経緯も踏まえた展示の工夫が必要である。一方、お祭りの展示と体験は、国際センター駅やメディアテークでの展開も考えられる。

3. 施設整備について

◇市民の誇りとなる場所

仙台市民が誇りを持って案内することができ、将来の仙台市民にとっても誇りとなる場所となると良い。

◇ゆとりのある施設配置

追廻地区の広々と開放的な土地を生かし、ゆとりのある施設配置とし、工夫次第で何かができる余地を残しておくべきである。

◇文化財の保護

公園センター予定地は仙台城跡の一部であり、遺構の保護には十分に留意する必要がある。また、遺構についての情報発信をすると良い。

◇片倉屋敷など歴史的関係性

片倉屋敷の復元については、十分な資料が得られていないため難しい。建物が片倉屋敷の復元建築物と誤解されないように注意が必要である。かつての城下町と仙台城をつなぐ中間点という配置の関係性などを意識しながら、公園として必要なエントランスの機能を整備すると良い。

◇大橋からの見え方

大橋をメインアプローチと捉え、大橋からの公園センターの見え方、そこから青葉山へ進んで見えてくる風景の連続性を重視して空間をデザインする必要がある。

◇一体的なデザイン

建物だけではなく、ランドスケープとしてとらえ、遠景での見え方、近づいていくときの見え方及び建物の素材の質感など空間を一体的にデザインすることが必要である。

(3. 施設整備について 続き)

◇「場所」のデザイン

来訪者が最初に訪れる建物の北側と東側が公園センターの顔となる場所と考えられ、デザインの工夫、広瀬川の石垣の見せ方の検討、また、大橋から公園センター、更には登城路への誘導動線の整理が必要である。

◇広瀬川とのつながり

来訪者が広瀬川のせせらぎと良好な眺望を体感できるように、また、公園センターを拠点とした川での活動も考慮し、公園センターと広瀬川がつながるような空間デザインの工夫が必要である。

◇設計の進め方の工夫

良い建築家が選定されれば、この場所の歴史的な意味を踏まえ、様々な要望を解決し、現代的な技術を使ってふさわしい建築を行うことができると思う。発注者が具体的な案を示すのではなく、設計者の創造力が発揮できることが大切である。また、設計のプロセスをオープンにし、様々な議論をして、設計に反映されていくと、期待が高まり、市民のプライドとなるような公園センターになると考えられる。

4. その他

◇公園センターの名称

公園センターの機能にふさわしい名称があると良い。